

# 志布志町十文字地域地力増進対策指針

昭和62年4月17日策定

## 1. 地力増進地域内の土壌の性質

本地域は、標高120メートル前後の黒色火山灰土に覆われた緩傾斜地で、母材は非固結火成岩から成る。

畑地の土壌は、厚層多腐植質黒ボク土造成相、表層多腐植質黒ボク土造成相、厚層腐植質黒ボク土造成相、淡色黒ボク土造成相及び中粒粗灰色台地土造成相が分布する。

これらの土壌のうち、黒ボク土は、りん酸吸収係数が大きく、有効態りん酸が不足している。灰色台地土は腐植が少なく、保肥力は小さく、有効態りん酸含量は少ない。さらに下層土のちみつ度が大きく作土が浅い。

## 2. 土壌の性質の改善目標

- (1) 作土の厚さは、黒ボク土では25センチメートル以上とし、灰色台地土では20センチメートル以上とする。
- (2) 主要根群域のちみつ度は、山中式硬度計で22ミリメートル以下とする。
- (3) 土壌のpHは、6.0から6.5までとするが、芋類を作付けする畑では5.5から6.5までとする。
- (4) 有効態りん酸含量は、乾土100グラム当たり黒ボク土では5ミリグラム以上、灰色台地土では10ミリグラム以上とする。

## 3. 土壌の性質を改善するための資材の施用に関する事項及び耕うん整地その他地力の増進に必要な営農に関する事項

- (1) 石灰資材の施用により土壌のpH及び塩基バランスの改善を図る。
- (2) りん酸資材は、土壌pH及び塩基バランスに応じて選択する。
- (3) たい肥等の有機物は、十分腐熟したものを施用する。
- (4) パンプレーカー、プラウ耕等により硬盤層の破壊を行う。

## 4. その他地力の増進を図るために必要な事項

- (1) 有機物の確保に当たっては、畜産農家との十分な連携を図ることに努める。
- (2) 冬期間は、風蝕と土壌のちみつ化を防止するため、地域に合った作物を導入し、適切な耕うんを行い土壌管理に努める。